

編 集 後 記

『国際経営フォーラム』No.16/2005が発行されることとなった。各位にご一読頂き、ご助言を賜りたいと思う。

さて、わが国の経済がようやく長いトンネルを抜け出そうとしている今日、日本企業のマネジメントのあり方に大きな変化が起こっている。一つは、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の形態や機能に関する日本的経営のあり方を探る動きである。もう一つは、従来の有形資産（タンジブルズ）から知的財産を含む無形資産（インタンジブルズ）を重視する経営への戦略シフトである。

現代企業が抱える重要なテーマについては、当研究所は常に問題の所在を探り、逸早く共同研究に着手し、問題考察のフレームワークと分析方法の提示を行ってきた。上記前者のテーマについては、2003年度から研究所長主宰の特別研究プロジェクトとして、また、2004～2005年度は本学の研究奨励制度に基づく共同研究「日本企業のコーポレート・ガバナンスと経営革新」（後藤 伸代表）として、計画的かつ意欲的に取り組まれており、その研究成果が期待される。

また、後者のテーマについては、本誌の巻頭言で照屋行雄所長が、企業価値創造のバリュー・ドライバーとしての無形資産の重要性について問題提起を行っている。そこでは、企業経営におけるインタンジブルズの重要性およびそれへの戦略シフトを認識することに加え、投資家など企業の各種利害関係者に対する情報開示のあり方について述べられている。インタンジブルズの開発戦略、価値測定、そして情報開示に関する多面的な共同研究が求められる。巻頭言は当研究所の次の研究テーマを示唆していると言ってよい。

さて、本誌は、特集「価値創造のマネジメント」に関する6本の論文を始めとして、特別寄稿や公開講演、共同研究や研究論文、さらには研究ノートや教育ノートなど多様な構成のもと、合計で19本の論考が収められている。本誌の頁数も、従来のものを大幅に上回り、所員および関係者の活発な研究活動や教育活動の成果を示している。執筆者各位に心から感謝申し上げる。特集については、2004年度の国際経営フォーラムにおけるそれぞれのスピーカーの発言を基に取り纏めたものであり、地域経済の再生と中小企業の地域貢献についての重要なメッセージとなっている。

同時に、ゼミナールの活動内容等の貴重なご寄稿に感謝申し上げたい。教育ノートでは、国際経営教育に関する具体的な実践として、顕著なものを教育現場から紹介して戴き、より充実した質の高い成果を着実に積み上げて行きたいと考えている。

本誌に関して、お気づきの点があればご指摘いただくとともに、次号においても多くの論文を寄せて戴ければ幸いである。（金谷良夫）

執筆者（掲載順）

小川 暹……神奈川県平塚商工労働センター所長
藤江俊彦……千葉商科大学
山岸英明……株式会社がんこ茶家 代表取締役社長
鵜野沢信一郎……神奈川県平塚商工労働センター商工課長
後藤 伸……神奈川大学経営学部教授
斎藤純一……神奈川大学経営学部教授
桐村晋次……法政大学キャリアデザイン学部教授
（元）神奈川大学経営学部教授（「キャリア形成論」担当）
丹野 勲……神奈川大学経営学部教授
小島大徳……神奈川大学経営学部専任講師
柳田 仁……神奈川大学経営学部教授
山田英俊……神奈川大学大学院経営学研究科博士後期課程
関口博正……神奈川大学経営学部助教授
金 宇烈……神奈川大学大学院経営学研究科講師
大田博樹……神奈川大学経営学部講師
ティオフィラス・アサモア……神奈川大学経営学部教授
テリー・バンダーピーン……神奈川大学経営学部外国人特任講師
関町 肇……BOS経営研究所代表・中小企業診断士
藤田昌久……神奈川大学経営学部講師（前神奈川大学経営学部教授）
薫 晓荣……神奈川大学大学院経営学研究科博士前期課程
穂積和子……神奈川大学経営学部教授
照屋行雄……神奈川大学経営学部教授・神奈川大学国際経営研究所所長

『国際経営フォーラム』編集委員会

委員長 金谷良夫 委員 石積 勝 後藤 伸
田中則仁 照屋行雄

『国際経営フォーラム』No. 16 ISSN 0915-8235
発行日 2005年6月1日（年一回発行）
編集人 『国際経営フォーラム』編集委員会
発行人 照屋行雄（国際経営研究所所長）
発行所 神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 神奈川県平塚市土屋2946
電 話 （0463）59-4111（代表）
F A X （0463）58-9683
e-mail:kokusaiken@adm.kanagawa-u.ac.jp
印刷所 株式会社興版印刷 電話（0463）32-1899

◆本誌掲載記事・論文の一部または全部の転載は、事前に筆者または国際経営研究所から直接紙面による許可を得た場合に限られます。